

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0772700258		
法人名	社会福祉法人 千桜会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 ゆいの家		
所在地	大沼郡会津美里町字高田道上2973-2 (電話) 0242-54-6733		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮 1 1 1		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年4月28日

【情報提供票より】(平成21年2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤5人, 非常勤2人,	常勤換算5.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	~1・2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,450 円	その他の経費(月額)	5,430 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

(4) 利用者の概要(2月10日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0	要介護2	6		
要介護3	2	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 84.4歳	最低	72歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	会津西病院、高田厚生病院、大塩訪問歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

和やかで明るく、利用者は我が家のように過ごしている雰囲気がある。パンづくり、パッチワ-クなどのボランティアが継続して訪問したり、利用者が地区の運動会、敬老会、公民館のサ-クル活動に参加するなど地域との交流が図られている。職員も明るく一生懸命に仕事に取り組み、利用者や家族からも信頼されていることが伺われる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題であった「評価の意義の理解と活用」「職員を育てる取り組み」については、外部評価の結果を受けて、改善に向けた話し合いを行っているが、年度途中での管理者の交代等があり、十分な取り組みができなかった。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を職員(非常勤職員を除き)に配布し、記入してもらい、管理者がまとめた。まとめたものは配布したが、話し合いは行っていない。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 運営推進会議では、ホ-ムの生活状況等を報告し、意見交換を行っている。災害時における近隣住民の協力体制について地区に要請すべきとの助言を受けて、区総会に出席して協力要請を行うなど運営に活かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 訪問時や運営推進会議への出席などの機会をとらえて、できるだけ家族の要望や意見等を把握するように努めている。また、運営に関する満足度、意向等を把握するため独自のアンケート調査を行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地区の運動会や敬老会、公民館のサ-クル活動に参加するなど地域との交流を図っている。また、ボランティアの積極的な受入を行っている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で話し合い「地域住民との交流の中でその人らしい人生を歩んで頂くよう支援します」という理念をつくりあげた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示するとともに、職員のネ - ムプレ - トの中にも入れるなど理念を常に意識しながら業務を行っている。実践が理念に基づいたものとなっているが、利用者との関わりを振り返る話し合いをさらに積み重ねてほしい。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の運動会、敬老会、公民館のサ - クル活動に参加するなど地域との交流を図っている。また、ボランティアの積極的な受入を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を職員（非常勤職員を除く）に配布して記入してもらい、管理者がまとめた。まとめたものは職員に配布したが話し合いは行ってない。外部評価の結果の報告を受け、改善に向けた話し合いを行ったが十分な取り組みとはいえない。		非常勤職員も含めて自己評価を行うようにしてほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催されている。ホ-ムの生活状況等を報告し、意見交換を行っている。災害時における近隣住民の協力について助言があり、地区の総会で協力要請を行うなど運営に活かされている。</p>		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行している「ゆいの家だより」でホ-ムでの暮らしぶりを家族に報告している。また、金銭管理報告や職員の異動等も併せて報告している。利用者の状態変化等は、その都度報告を行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や運営推進会議への参加などの機会を活用し、家族の意見等を聞くように努めている。サービスに対する満足度や意向等を把握するためのアンケートも実施している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者の異動があったが、前管理者が異動する前に現在の管理者が引継ぎのために配置されるなど、異動による利用者への影響を抑える配慮を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、月1回開催される法人の専門委員会に出席している。外部研修には順番に参加するようにしているが、非常勤職員に対しては研修の機会がない。		非常勤職員には研修の機会がないので、レベルアップやケアの統一を図るためにも研修の機会を確保するようにしてほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グル-プホ-ム連絡協議会に加入し、研修会、交流会に参加し、情報交換を行うなど同業者との交流を図っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が季節の行事や料理などを一緒に行い、その中で利用者から教えてもらう場面も多い。共に暮らし支え合う関係が築けるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症介護研究・研修東京センター方式の一部(私の姿と気持ちシート)を活用し、利用者の希望や意向の把握に努めるとともに、日々の関わりの中での利用者の言葉等をケース記録に記入し、連絡ノートにより職員間で情報共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成に当たっては、計画作成担当者、職員、本人、家族によるサービス担当者会議を開催し、それぞれの意見を反映させている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、カンファレンス、モニタリングを行い、設定した期間に応じて見直しを行っている。状態変化があった場合は、その都度話し合いを行い現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望するかかりつけ医とし、家族同行受診を原則としている。家族同行受診に当たってはメモ等での情報提供を行い、結果の報告も受けている。職員が同行した場合は受診結果に異常等があった場合、速やかに家族に報告している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>事業所の方針として重度化や終末期の対応はしない旨を説明している。</p>		<p>利用者、家族の重度化や終末期ケアに対する希望を把握すると共に、医師、看護師との連携、職員との話し合いを行ってほしい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は、利用者が言われたくないこと、不快な思いをしないよう対応することを心がけている。記録物などの個人情報も適切に管理されている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、起床、食事、日中の過ごし方等は、本人の思い、希望を尊重するように支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物、調理、盛り付け、配膳、後片付けなど利用者と職員が一緒に行っている。また、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しみながら食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は午後からとなっており、毎日の入浴が可能で、利用者の希望に応じて対応している。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	オルガンを弾いてもらうなど利用者の生活歴を活かした支援を行っている。また、遠出の外出など楽しみごとの機会を作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物や散歩に出かけたり、畑仕事や花の手入れなど個々の希望あわせて戸外に出かける機会を作っている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵はかけていない。利用者が外に出そうな様子を感じたら、職員がさりげなく声をかけたり、寄り添うようにするなど、自由な暮らしを支えるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間計画により毎月避難訓練等を行っている。年1回、併設施設合同による夜間想定での避難訓練を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量はチェック表で把握されている。利用者の状態に応じて栄養、水分の補充を行っている。献立は併設施設の栄養士の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、畳敷きコナ、キッチンが一体化し、利用者に居心地の良い空間となっている。季節感の感じられる装飾も配置され、利用者にとって不快な音や光もないよう配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、整理タンス等が備えられているが、写真や身の回りの品が持ち込まれ、居心地のよい居室作りに配慮されている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（別紙1）を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 認知症対応型共同生活事業所ゆいの家

記入担当者名 菅家 洋子

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。